

## 公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

### 平成 25 年度 事業計画

(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

#### はじめに

今年度の事業は、新社屋の建設（竣工・引渡し 8 月下旬、外構を含む工事全体の竣工 10 月中旬）に伴い、新構想を立てて、従来の図書館（社会教育）事業、語学院（学校教育）事業（募集・教育・進路支援等）及び国際交流・協力事業の抜本的な拡充を行うとともに、新規のパートナーシップ協定に基づく三鷹市立南部図書館（仮称、開館 11 月 23 日）との協働事業及び中日文化研究所から移行した国際協力（技能実習生受け入れ）事業を加え、各事業の充実を図り、事業相互の連携によるシナジステイク（synergistic、相乗的）な効果にも配慮して全体として充実したものにす。

#### (1) 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

- a) 蔵書収集及び閲覧・貸出し：デジタルデータによる蔵書登録を継続するとともに、国立情報学研究所によるデータベース（Nacsis Webcat）に対する本館所蔵図書の登録を進め学術機関間の相互貸借に貢献する。
- b) 文化講座の開催：一般の人々を対象とした「アジア・アフリカを知る集い」及び三鷹ネットワーク大学と連携した文化講座を開催する。
- c) 調査・翻訳の受託：レファレンスを含めた調査・翻訳の依頼に対応する。
- d) 三鷹市立図書館との協働事業：

郭沫若文庫の所蔵品を三鷹市立南部図書館（仮称）に無償貸与し、同図書館が市民向けに公開する際、調査研究や展示企画等に協力する。

三鷹市立南部図書館（仮称）が行う選書に協力する。

当図書館を利用する一般市民を念頭においた閲覧・貸出しサービスの拡充と、アジア・アフリカ世界の理解の促進に資する資料の収集を行う。

三鷹市立南部図書館（仮称）主催または同図書館関連団体が主催する国際理解の促進に係る事業の企画及び実施に協力する。

#### (2) 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

- a) 言語・文化・社会に関する教育

専門課程教育：日本語学科においては、外国人学生を対象とした日本語教育並びに日本の高等教育機関への進学指導や就職指導を行う。定員 100 名。全日制 1 年課程（4 月入学）、全日制 1.5 年課程（10 月入学）を実施する。なお、同学科では学生の日本語レベルや進路の多様化に対応すべく、本年度から単位制を導入する。アジア系語学科においては、入学者の減少傾向に対応すべく募

集に努力する。定員 100 名。全日制 1 年課程（4 月入学）全日制 2 年課程（4 月入学）を実施する。

専修学校の付帯教育及び別科の教育：社会人教育として、一般社会人を対象としたアジア・アフリカ諸言語の講座や文化講座をグループ及びプライベート形式で実施する。また、法人（企業・官公庁など）からの依頼に応じた語学研修を企画・実施する。

- b) 学生寄宿舍の運営：外国人学生寄宿舍『有朋館』（23 人収容）の運営と学校周辺の貸し物件を借り受けて留学生に提供する。

### **(3) 国際交流事業**

- a) 異文化体験の提供：アジア・アフリカ世界の教育関係者及び日本留学希望者を日本に招くプログラムを企画・実施する。
- b) 人材紹介：アジア・アフリカ世界における人材募集の情報を収集し、広報するとともに人材のマッチアップに努める。

### **(4) 国際協力事業**

- a) 外国人技能実習生の受入れ：入管法及び関係法令に基づく「技能実習制度」に則った技能実習生の受入れを継続する。なお、本年度は、姉妹団体・社団法人中日文化研究所（一般社団法人への移行認可申請中）が行っていた技能実習生受入れ事業の承継初年度である。承継した事業の維持運営に努め、かつ、新規の実習実施機関（受入れ企業）や送出し機関の開拓に取り組む。
- b) 日本語教育普及：「日本語教員交流プログラム」を結んでいる海外の教育機関との交流を中心に、日本語教師の海外派遣を行う。

以上